

キャリア発達を支援する学校生活づくりの在り方 ～地域との協働をとおして～

千葉県立夷隅特別支援学校

電話 0470-86-4111

FAX 0470-86-3341



研究のポイント

文部科学省委託事業の指定研究として平成29年度より3年計画でキャリア教育の研究に取り組んでいる。今年度は、各学部段階における地域協働に取り組み、児童生徒のキャリア発達を目指すとともに、地域協働を中軸としたカリキュラム・マネジメントを行うことを通して、卒業後の自立を見据えたキャリア発達を支援する教育課程の在り方を明らかにする取組を行った。

■学校の概要

<http://www.chiba-c.ed.jp/isumi-sh>

本校は、昭和55年に知的障害を対象とした養護学校として開校し、平成19年4月に千葉県立夷隅特別支援学校となった。いすみ市、勝浦市、御宿町、大多喜町を通学区域として、小学部、中学部、高等部が設置されている。今年度は、小学部16名、中学部14名、高等部29名、合計59名の児童生徒が在籍している。

■研究課題

学校生活全体を通して、小学部から高等部までの児童生徒がキャリア発達するための指導・支援にあたり、キャリア教育の充実を図る。

■研究の目的と方法

【研究の目的】

キャリア発達を支援する学校生活づくりに向けて、基盤となる授業の在り方を検討し、教員の専門性の向上を図る。また、地域協働活動を中軸にカリキュラム・マネジメントを行うことを通して、卒業後の自立を見据えたキャリア発達を支援する教育課程編成の在り方を明らかにする。

【研究の方法】

- ①地域協働活動を軸として各学部の授業研究を実施し、単元計画を積み重ねることで、学ぶ意義や年間指導計画等を見直し、キャリア発達を支援する教育課程編成の在り方を明らかにする。(地域協働、カリキュラム・マネジメント)
- ②PATH の研修を行い、本人の願いとキャリア教育との関連性について教員間で共通理解を図ることで、支援の充実につなげる。(本人の願い)
- ③校内の組織力の向上を図り、小中高連続性のある学びにつなげるために、校務分掌と学級とで連携した1グループ1授業(1G1J)を行い、PDCA サイクルをもとに授業の在り方を検討する。(授業づくり、小中高の系統性)
- ④学びのつながりを明らかにするために、サービス事業所や企業等の見学を実施する。(卒業後を見据えた)

■研究概要

【成果】

1 キャリア発達を支援する授業づくり

①小中高の連続性のある授業づくり～1G1Jの取組みから～（方法③）

- ・領域教科の分掌担当者（小中高）も授業づくりに加わったことで、他学部の実践内容を知り、現段階で身に付けたい力について確認することができ、授業の目標設定を明確にすることができた。
- ・教科の専門性が加わったことで、授業が向上し、児童生徒の主体的な学びやキャリア発達の姿を支援することができた。

②「本人の願い」の捉えの深まり～PATHワークを通して～（方法②）

- ・多数で意見を出し合い、多面的に児童生徒のことを考えていくことで、児童生徒への理解が深まり、行動だけではなく、気持ちの変化に着目できるようになった。
- ・「本人の願い」から支援方法や指導内容について考えることで、柔軟な発想で話し合うことができた。意見交換が活発となり、組織力の向上につながった。

2 キャリア発達を支援する学校生活づくり

①地域との協働を軸とした授業の質の向上～授業研究会をとおして～（方法①）

- ・各学部段階における「地域」「協働」「目指す姿」等を明確にして地域協働活動に取り組んだことで、教員側の目指す姿が明確になり、児童生徒にとって必然性のある学びを設定することができた。授業の質が向上したことで、児童生徒の主体的に取り組む姿を引き出すことができ、向き合い方の変化や、身に付けた力の活用といったキャリア発達の姿へとつながった。

②単元計画のカリキュラム・マネジメント～授業の振り返りを通して～（方法①）

- ・授業実践後には授業者が集まり10分間の振り返りを積み重ねたことで、授業の成果と課題が明らかになり、次時の授業や次の単元の改善へとつなげることができた。

③年間指導計画のカリキュラム・マネジメント～地域協働を中軸として～（方法①）

- ・児童生徒の学びのつながりや積み重ねを意識し、各教科・領域で学んだことを生かせる年間指導計画、行事の見直しを学部ごとに行い、教育課程の整理をすることができた。

④卒業後から見た学びのつながり

～進路研修、サービス事業所、企業等の見学会を通して～（方法④）

- ・希望研修にもかかわらず、参加希望人数が多く、卒業後への意識が初年度よりも高まった。
- ・本校卒業生が働く福祉事業所や企業の見学会を通して、高等部だけでなく、小学部、中学部段階から卒業後を見据えた支援・指導に取り組む必要があることに気づき、実践に生かすことができた。

【課題～キャリア発達を支援していくために～】

1 地域協働の発展と充実

- ・地域とのつながりを継続・発展させ、「必要とされる学校」「必要とされる児童生徒」を目指し、地域協働を充実させていく。

2 組織的な教育課程の編成

- ・「社会的・職業的自立」に向け、児童生徒にとって学びの必然性が明確な授業実践ができるように、教科横断的な視点で、学びの文脈を創る教育課程を組織的に見直し、改善していくサイクルを確立する必要がある。